

事業名：次世代保健医療人材の育成と浜通り発・高齢者健康長寿社会の実現(全体概要)

福島県立医科大学 連携市町村：南相馬市、飯舘村
現地拠点：南相馬市(予定)・飯舘村(予定)

事業のポイント

本事業は保健医療分野での「多職種連携の実践的人材育成」、「地域医療・IoTモデル構築」、「復興知の継承と放射線リスクコミ」の3本柱で展開する。本事業を正規カリキュラム化し、地域病院、自治体、施設等への入職と地域定着を目指す次世代保健医療人材育成と共に、浜通りから高齢者が誇りと自信を持って暮らせる自立かつ持続的な健康長寿社会の実現を目指す。南相馬市と飯舘村での活動実績を起点とし、両プロジェクトから得られた知見を地域共創モデルである「浜通りモデル」として創出し「地域まるごとケア」の活動フィールドを、他の浜通り地域や国内外へ拡大する。

人材育成・定着計画及び目標

【学生】

保健科学部4学科横断的な教育プログラムにより、年間で150名の浜通り地域への学生派遣や、地域保健医療への愛着と課題解決能力を備えた人材の育成を図る。浜通り地域の医療拠点や自治体・関連施設等への入職スキームを構築し、5年間で本地域への累計30人以上の専門職の入職・定着を図る。

【住民】

IoT機器の活用し科学的エビデンスに基づく先制予防により、住民自身の健康管理の定着、健康寿命延伸、及びフレイルリスクの低減を目指す。

2026年度の活動内容

- ① 南相馬市において、センターベース方式による多職種連携・参加型の生活機能評価会を実施するとともに、スマートリング等のIoT機器を活用したデータ取得・解析体制の整備を行う。
- ② 飯舘村において、臨床・レクリエーション実習を含むインターンシップ型プログラムを実施するとともに、ボランティア活動を通じて被災経験(復興知)の継承および語り部セッションを実施する。
- ③ 本学及び長崎大学との連携により、科学的根拠に基づく放射線防護およびリスクコミュニケーション(リスクコミ)に関する学習会を定期的開催し、学生及び地域住民の不安の軽減と信頼関係の醸成を図る。

取組によって得られる成果

- 多職種連携の実践スキル、デジタル技術の運用能力やIoTデータ解析能力、および実際のフィールドでの高度な臨床推論能力や課題解決能力、保健医療分野におけるデジタルリテラシーを習得し、地域に根差し、住民の健康を支える次世代保健医療人材の育成と定着。
- IoT機器等デジタル技術を活用した予防医学の社会実装、住民のヘルスリテラシーの向上と健康寿命延伸・フレイルリスクの低減。
- 科学的知見に基づく放射線リスクコミュニケーション力の涵養と放射線への不安払拭による信頼関係の醸成と心理的復興。



多職種連携による実践人材育成・浜通り地域への定着



持続可能な地域医療・IoTモデル構築



復興知の継承と放射線リスクコミュニケーション(リスクコミ)
 震災の経験や教訓及び放射線に関する「復興知」の継承と放射線リスクコミ能力の涵養

FMU4学科(PT/OT/RT/MT)が学科の枠を超えた協働による「多職種連携教育」の場の構築と次世代保健医療人材の育成

学生の医療分野におけるデジタルリテラシーの涵養とスマートリング等を用いた地域住民の自己健康管理(ヘルスリテラシー)の向上

地域共創浜通りモデル

南相馬市プロジェクト

多職種連携・生活機能測定・IoT
 デジタル技術×科学的エビデンス



飯舘村プロジェクト

復興知継承・放射線リスクコミ
 対話×共感・心理的復興



次世代保健医療人材の育成

浜通り地域への定着促進

住民のヘルスリテラシー向上

浜通り発・特色ある健康長寿社会の実現